

●協働のまちづくりと行政経営改革を目指して

2 年度予算の概要

3 月に行われた第 1 回市議会定例会で、本年度の当初予算が可決されました。厳しい財政状況の下、奥州市の発展のため、限られた財源を主要事業に重点的に配分しました。ここでは一般会計を中心に、そのあらましをお知らせします。

■問い合わせ〓本庁財政課財政係（☎34-1766）



▲市ホームページ

一般会計は前年度予算の 3・8 % 減に

本年度の当初予算は、「協働のまちづくりの定着」と「行政経営改革の着実な推進」に努めることを基本的方針に定めて編成しました。人口減少対策や協働のまちづくりの推進などの重点施策に継続して取り組むほか、カヌー競技推進事業など、当市の魅力をさらに発信する事業を着実に進めていきます。

一般会計の予算総額は、587 億 2390 万円で、前年度当初予算と比較すると 22 億 9710 万円、3・8 % の減となりました。ひっ迫する財政状況を踏まえ、今回は新たに枠配分方式を導入し、歳出規模の抑制に努めました。

しかし、下水道事業の公営企業会計移行に伴う負担金や出資金の増、臨時職員などの会計年度任用職員への移行に伴う人件費の増などもあり、市の貯金に当たる財政調整基金から多額の取り崩しをして、予算を編成しなければなりませんでした。

今後、市の重点事業を推進していくためにも、歳入の確保や経常経費の削減を進め、財政力の強化に取り組んでいきます。

【歳入】

市税は、最近の厳しい経済情勢や法人市民税の税率の引き下げに伴う減収などを見込んで、2 億 1093 万円、1・6 % の減としています。地方交付税のうち、普通交付税は

その結果、自主財源と依存財源の比率は、自主財源の割合が 2 % ほど増える形になりました。

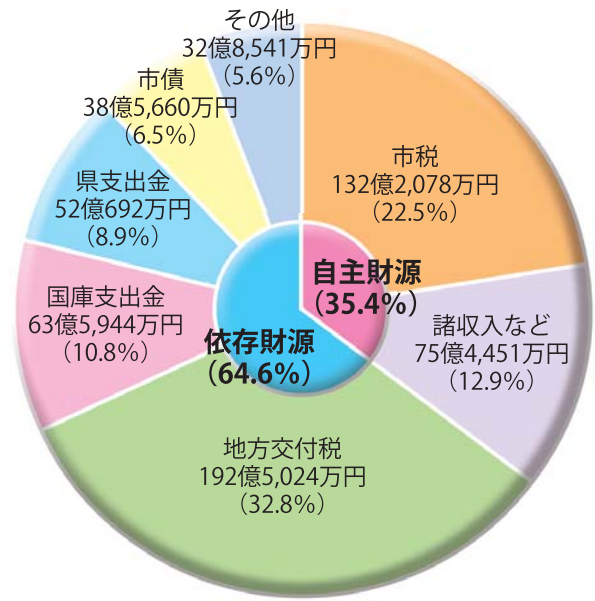
【歳出】

義務的経費では、借り入れの抑制などによって公債費が減りましたが、会計年度任用職員関連での区分変更による人件費の増や、生活保護などの扶助費の増もあり、11 億 204 万円、4・2 % 増えました。

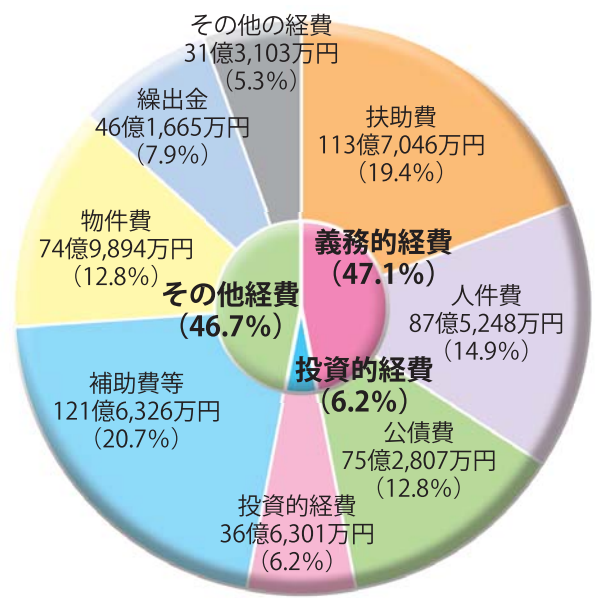
投資的経費は、公共施設の今後のあり方を定める「個別施設計画」が策定中であることを踏まえ、江刺第一中学校屋内運動場改築工事などに

一般会計の歳入

※（ ）内の数字は構成比



一般会計の歳出



【用語解説】

- ◇一般会計…福祉、教育、消防など広く使われる会計
- ◇経常経費…毎年継続して固定的に支出される経費（光熱水費、通信運搬費など）
- ◇普通交付税…標準的な行政水準を確保するため、財源が不足する自治体に対し、交付されるもの
- ◇特別交付税…普通交付税ではカバーできない災害などの個別・緊急の需要に対し、交付されるもの
- ◇合併算定替…普通交付税の算定に当たり、合併後 10 年間は旧市町村ごとの金額を配分する優遇措置。合併後 11 年目から 5 年間かけて段階的に縮減され、優遇措置が終了する。2 年度は 15 年目の縮減最終年
- ◇自主財源…地方自治体が自らの権限で収入できるお金（市税、使用料など）

- ◇依存財源…国や県から入るお金（地方交付税、国庫支出金など）
- ◇扶助費…社会保障の一環として、生活困窮者、高齢者、子ども、障がい者などを支援するお金
- ◇補助費等…市民や各種団体への補助金
- ◇公債費…公共施設の整備や財源不足を補うために長期に借り入れるお金
- ◇義務的経費…支出が義務付けられていて、任意に削減できない経費（人件費、扶助費、公債費）
- ◇投資的経費…道路や学校建設など、社会資本形成のために支出される経費